



そろばん読上算競技で日本一

賀来 有希沙 さん 13

そろばんの先生たちも参加する8月の全日本珠算選手権大会で、東京都内の中学2年生・賀来有希沙さん(13)が、種目別読上算競技で優勝しました。この部門では最年少の優勝です。賀来さんに、そろばんの練習や日頃の生活などについて聞きました。(小5・細井このみ、中3・石井遥、高一・中山知香記者)

そろばんを始めたのは4歳のとき。二つ上のお姉さんが練習するのを見て、習いたくなったといいますが、弟も含め、3人きょうだい全員が習っています。「きょうだいでそろばんの話をしたり、競い合ったりしています。姉は今も目標で、憧れます」。賀来さんの腕前は現在、そろばん九段、暗算十段。暗算が好きで、頭の中で、そろばんの玉をばじくばじくに計算しているそうです。

全日本珠算選手権大会の読上算競技では、7ケタの数

「計算頼まれるとうれしい」



全日本珠算選手権大会の種目別読上算競技の優勝トロフィー

百万)から16ケタ(数千兆)までの数字が読み上げられて、問題を計算します。選手約400人が挑戦する中で、1問目から3問目は正解者がなく、賀来さんは4問目の加算でただ一人、「6638兆557億……」と正解。優勝が決まりました。

賀来さんが通う宮本暗算研究塾Max(東京都中野区)で、大会のビデオを見せてもらいました。猛烈な速さで読み上げられる数字を計算できる技術に、度肝を抜かれました。塾の

宮本裕史先生(55)は、聞き取りの難しさをはじめ、数字を記憶して計算し、答えを正確に書くことの難しさもあると説明します。

賀来さんは小学5年生のときに初めて全日本の大会に出場し、今回が4回目。「経験の一つとして出ているので、まさか優勝できるとは思っていませんでした。驚きました。全日本での優勝は夢だったので、うれしかったです」。練習した分、緊張もありました。答えができて、書くときに指が動かないこともあったそうです。

平日4時間、大会前は10時間も練習。そろばん塾では、テレビ画面に次々映し出された数字を計算するフラッシュ暗算などにも取り組みます。「問題の答えが合わずス

ランプになったこともありません。そんなときほつらくてやめたいと思うけれど、結局は好きだから、やめません。そろばんは、みんなと一緒に練習して、一緒にうまくなるところが楽しい。練習しただけ成果が出るのが面白い」

体を動かすことが好きなので、そろばん塾が終わると30分ほどジョギングもしています。学校との両立は出来ているのでしょうか。「できています。宿題は学校が終わって、そろばんが始まる前にとります。生活はとても充実しています。友達に計算を頼まれるとうれしい」

同世代へのメッセージをお願いしますと、「何事もあきらめずに頑張ってください。私が優勝できたのは、あきらめないで頑張ってきたからだと思います」と話してくれました。

将来は、そろばんの先生になりたいという賀来さん。目標は、かけ算や割り算など6種目の総合得点を競う全日本の個人総合優勝し、そろばん日本一になることです。「年々成績が上がってきたので、頑張りたい」。「好き」という気持ちの大切さが、私たちに

「スランプは、ひたすら練習して乗り越えまして話す賀来さん(東京都中野区)」



ぼくの学校では、学芸会で行う劇の練習をしている。タイトルは「くちぶえ番長」。気の弱い主人公が正義感の強い転校生と出会い、「一歩踏み出す勇気」を教わり、成長し

ていく物語だ◆ぼくは一歩を踏み出せなくて後悔したことが何度もある。委員会で立候補するときも、ケンカで謝るときも、勇気が出ない。そして後悔して、その一歩が自分にとって大きな一歩だと思うのに、やっぱりケンカでは先に謝れない。成長できていないのだ◆本当は自分で自分を変えるのが一番なの

だと思うが、この主人公のように、自分を変えるチャンスをほかの誰かにもらうのも、悪くないのだろう。新しい仲間との出会いで変わるチャンスを、中学校で見つけられるだろうか。(小6・安蘭恵吉記者)

